

第42回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和6年5月31日（金） 13：15～
場 所	各務原市役所 本庁舎低層棟 1階市民交流スペース
委 員 (敬称略)	【出席】（敬称略） 高井 勇輔 （名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長） 宮部 敬輔 （岐阜乗合自動車株式会社営業管理部課長） 平塚 康男 （名鉄バス株式会社運輸本部交通企画官） 木村 治史 （（公社）岐阜県バス協会専務理事） 横山 孝司 （川島タクシー株式会社専務取締役） 山田 健太郎 （日本タクシー株式会社代表取締役社長） 小島 康史 （岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長） 正村 明 （岐阜乗合自動車労働組合執行委員長） 江口 克己 （市自治会連合会副会長） 近藤 亜矢子 （子ども子育て会議委員） 清水 孝子 （八木山地区社協事務局長） 下平 真一郎 （中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官） 服部 敦 （岐阜国道事務所管理第一課長） 児玉 忠哲 （岐阜土木事務所施設管理課長） 中村 俊夫 （各務原市都市建設部長）（代理：高橋 直紀） 今津 篤 （各務原警察署交通課長） 城戸脇 研一 （岐阜県都市建築部公共交通課長）（代理：棚橋 典広） 岩田 紀正 （各務原市議会経済教育常任委員長） 各務 英雄 （各務原商工会議所専務理事） 杉山 仁 （株式会社アイシンチョイソコサービス企画室室長） 川端 光昭 （岐阜工業高等専門学校環境都市工学科准教授） 今道 雄介 （各務原市副市長） 山内 明 （笠松町企画環境経済部企画課課長）※隣接自治体 【事務局】 各務原市 産業活力部商工振興課

・議事

- ① 各務原市地域公共交通会議の役員選任、幹事会に関する規程について
- ② 令和5年度事業報告および決算
- ③ 令和6年度事業計画および予算
- ④ 地域公共交通確保維持事業について
- ⑤ チョイソコかわしまの運行について

・報告

- ① 令和5年度利用状況
- ② チョイソコかかみがはらの停留所について

・その他

■議事

- ・議事① 各務原市地域公共交通会議の役員選任、幹事会に関する規程について
- ・議事② 令和5年度事業報告および決算

※委員からの質問や意見は、なし

- ・議事③ 令和6年度事業計画および予算

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<岐阜工業高等専門学校 川端委員> ・免許証自主返納支援事業を、今年度をもって廃止するという事務局の考えは十分理解できる。 ・この事業が高齢者の公共交通利用促進に与えた効果や今後の利用促進などを、包括的にどのように考えているのか。 ・(事務局の回答に対して) 一方でこの事業を廃止することが高齢者軽視というイメージを感じられないよう、丁寧に説明する必要がある。	<事務局> ・免許証自主返納支援事業は、交通系 IC カードの普及という役割を十分に果たしたと考えている。また、運転手不足が深刻な中、公共交通計画の中で公共交通を使って誰もが住み続けられるまちを目標としており、公共交通を維持していくことが大切と考えている。
<岐阜工業高等専門学校 川端委員> ・調査事業でビッグデータを活用するという話ですが、業者さんからデータを購入して、事務局が直営で分析するか、メッシュデータが納品されてそれを分析するか、どう行うのか。	<事務局> ・500mメッシュでどこを調査するか選び、人の移動を把握する。データの分析まで委託することを考えている。 ・公共交通会議の場で調査結果の報告を予定している。

- ・議事④ 地域公共交通確保維持事業について

補足説明
<岐阜運輸支局 下平委員> ・運行赤字が出ているが、路線維持が必要な路線を計画に位置付けることにより、運行維持における補助金を出す事業で、資料を作成し提出すると補助金がもらえるといったもの。 ・毎年6月が提出期限となるため、この時期の資料作成および国への提出という流れになっている。

・議事⑤ チョイソコかわしまの運行について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<八木山地区社協 清水委員> ・八木山地区のチョイソコは、運行時間が16時までだが、その違いは。	<株式会社アイシン 杉山委員> ・チョイソコかかみがはらは、市が運行しているもの。チョイソコかわしまは、チョイソコカラタンという既存のものをエリア拡大するイメージでの運行となる。チョイソコカラタンが、8時半から17時半で運行しているため、合わせている。
<岐阜工業高等専門学校 川端委員> ・乗継拠点「東米野」の待合環境は、どうなっているか。	<株式会社アイシン 杉山委員> ・「東米野」は東海北陸自動車道の高架下があり、雨はしのぐことができる。各務原市ふれあいバスや笠松町民バスの結節点となっているため、そこに合わせて設置する。

隣接自治体の意見
<笠松町企画課 山内委員> ・広域的に移動ができる公共交通の実現ということで非常に喜ばしく思っている。笠松町地域公共交通会議でも協議をして、実現に向けて進めていきたい。

■報告

- ・報告① 令和5年度利用状況
- ・報告② チョイソコかかみがはらの停留所について

※委員からの質問や意見は、なし

■総括

川端先生 総括・指摘事項
・ふれあいバスやチョイソコを含め、利用者数が順調に回復傾向にあるということで、地域別の実情を踏まえながらあらゆるモードを組み合わせで地域で使える交通にしていって、利用者の底上げを図っていくことを目指す必要がある。 ・公共交通は、人を運ぶだけが目的ではなく、福祉の側面や地域活性化の側面もあるため、採算性だけが重要ではないが、完全に無視することなく、動向を踏まえていってほしい。

・公共交通計画にはあまり書かれてはいないが、ライドシェアの議論が全国的に活発になっている。個人的にはあまりライドシェアを拙速に導入すべきではないという立場だが、国としても会議が展開されており、選択肢として各務原市の交通モードのオプションとなる可能性がある。いざとなったら、市に合わせた形で導入できるように準備をしておくといよい。